

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス			
教科目名	政治・経済	担当教員	中村史信
学年学科	3年 A学科	通年	必修 2単位
学習・教育目標	(A-1) 100%	JABEE 基準 1 (1) (a) 50%、(f) 50%	
<b>授業の目標と期待される効果：</b>  この授業では日本と世界の政治・経済をめぐる諸問題について総合的に学習する。具体的な目標は以下の通り。 1. 政治・経済の基礎知識を広げる。 2. 社会問題を論理的に考察し、説明する力を養う。 3. 現代の時事問題や国際情勢への理解・関心を深める。		<b>成績評価の方法：</b>  以下の総得点 500 点に占める得点率で最終評価を行なう。  前期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋課題提出 50 点 後期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋課題提出 50 点  <b>達成度評価の基準：</b>  以下の各要素についての達成度を成績評価の基準とする。 1. 政治・経済についての正しい知識を習得したか。 2. 授業内容を論理的に考察し、説明する力がついたか。 3. 現代の時事問題や国際情勢への理解・関心が深まったか。	
<b>授業の進め方とアドバイス：</b> 授業は教科書と板書を使用した講義形式で行う。授業中には随時質問を交え、学生の積極的な発言を求める。「政治とは何か?」「世界とは何か?」「社会をどのような視点から眺めるのか?」このような問いを自らに投げかけ、自分の視野を時間的・空間的に広げてほしい。受講者の興味・関心を喚起するような書籍や画像・映像資料を提示し、時事問題に関する解説も加えていく。			
<b>教科書および参考書：</b> 『最新政治・経済資料集』(第一学習社)を教科書とし、その他必要に応じてプリント等を配布する。			
<b>授業の概要と予定：前期</b>			<b>AL のレベル</b>
第 1 回：イントロダクション			
第 2 回：法と国家 (1)			
第 3 回：法と国家 (2)			
第 4 回：近代政治の成立 (1)			
第 5 回：近代政治の成立 (2)			
第 6 回：大日本帝国憲法			
第 7 回：日本国憲法 (1) 成立・趣旨			
第 8 回：中間試験			
第 9 回：日本国憲法 (2) 国民の権利			
第 10 回：日本国憲法 (3) 改憲論争			
第 11 回：現代の政治 (1) 政党・内閣			
第 12 回：現代の政治 (2) 選挙			
第 13 回：現代の政治 (2) 住民運動・行政改革			
第 14 回：地方自治			
第 15 回：裁判所			
<b>期末試験</b>			
第 16 回：フォローアップ (期末試験の解答の解説など)			

授業の概要と予定：後期	ALのレベル
第17回：市場経済のしくみ（1）	
第18回：市場経済のしくみ（2）	
第19回：戦後の日本経済（1）高度経済成長～石油危機	
第20回：戦後の日本経済（2）安定成長～バブル崩壊	
第21回：国民経済と国際経済	
第22回：現代社会の諸問題（1）大きな政府・小さな政府	
第23回：現代社会の諸問題（2）少子・高齢化社会	
第24回：中間試験	
第25回：現代社会の諸問題（3）労働問題	
第26回：現代社会の諸問題（4）公害・環境保護	
第27回：国際社会の諸課題（1）国連	
第28回：国際社会の諸課題（2）安全保障・領土問題	
第29回：国際社会の諸課題（3）南北問題	
第30回：国際社会の諸課題（4）民族紛争	
第31回：国際社会の諸課題（5）グローバリゼーション・ローカリゼーション	
期末試験	
第32回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など）	

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 （優）	標準的な到達 レベルの目安 （良）	未到達 レベルの目安 （不可）
1	政治経済の知識に関する問題を正確に答えられる(8割程度)	政治経済の知識に関する問題をおおよそ正確に答えられる(6割程度)	政治経済の知識に関する問題を正確に答えられない
2	授業内容を十分論理的に説明できる	授業内容をやや論理的に説明できる	授業内容のごく一部しか論理的に説明できない
3	現代の時事問題や国際情勢について、深い関心と理解をもつ	現代の時事問題や国際情勢について、やや関心と理解をもつ	現代の時事問題や国際情勢について、ほとんど関心と理解をもたない